

エコアクション21 環境経営レポート

第58期

(活動期間：2023年7月1日～2024年6月30日)



ベルテクネ株式会社

発行日 2024年8月1日

目 次

計画の策定（Plan）

1.組織の概要	1
2.認証登録範囲	1
3.環境経営方針	2
4.環境経営目標	3
5.環境経営計画	4

計画の実施（Do）

6.環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
（1）環境管理実施体制.....	5
（2）58期に実施した環境への取組内容	6

取組状況の確認及び評価（Check）

7.環境経営目標の実績と評価	10
8.環境経営計画の取組結果とその評価.....	11
9.次年度の環境経営目標、環境経営計画.....	13
10.環境関連法規の遵守状況の確認及び違反、訴訟の有無.....	15
11.内部監査の結果.....	15

全体の評価と見直し（Act）

12.代表者による全体評価と見直し結果	16
---------------------------	----

1. 組織の概要

(1) 事業者名

ベルテクネ株式会社

(2) 代表者名

代表取締役 前田 努

(3) 所在地

〒811-2114 福岡県糟屋郡須恵町大字上須恵 1495-1

(4) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：池永 晶夫

連絡担当者：矢富 康之

TEL 092-932-4166 FAX 092-932-5951

E-mail info@belltechne.co.jp

(5) 事業内容

精密板金加工、建築金物設計・製作・施工、水産関連機器設計・製作・施工

建設業（一般）、鋼構造物工事業、板金工事業、建具工事業

URL: <http://belltechne.co.jp/>

(6) 法人設立年月日 1914 年5月

資本金 6,310 万円、従業員 115名、床面積 5,460 m²

売上高 58期 28 億 9100 万円

(7) 事業年度

7月～翌6月

2. 認証登録範囲

(1) 対象事業所 本社

(2) 対象事業活動：精密板金加工、建築金物設計・製作・施工、
水産関連機器設計・製作・施工

3.環境経営方針

我々は、地球環境の改善が人類共通の最重要課題であることを強く認識し、企業活動においてあらゆる面で環境への負荷の低減を継続的に推進します。

さらに、環境保全に配慮した生産活動を進め、従業員及び、当社の為に働く人々の力を結集して、持続的な環境保全の取組を実施し、環境経営の継続的改善に努めます。

1. 事業活動に関わる環境保全に関する法令、自治体との協定及び当社が合意した業界の規範を遵守し、更に技術、経済的に可能な範囲で制定した自主規準を遵守する。
2. 事業活動の各分野において、以下の項目を重点項目として環境保全活動に取り組む。
 1. 地球温暖化防止のための省エネルギー化
 2. 資源の有効活用
 3. 廃棄物の削減とリサイクル化の推進
 4. 水使用量の削減
 5. グリーン購入の推進
 6. 化学物質の適正管理
3. 環境経営方針達成のため、環境経営目標及び環境経営計画を設定し、この目標・取組を達成するために、全従業員及び当社のために働く全ての人々をあげて環境マネジメント活動を推進する。また環境経営目標及び環境経営計画を定期的に見直し、必要に応じて改訂する。
4. 全体集会や環境情報を実施して、当社の従業員及び当社のために働く全ての人々への環境経営方針の理解と環境情報の周知徹底を行い、環境保全に関する意識の向上を図る。

制定日 2010 年 7 月 1 日

改訂日 2019 年 7 月 1 日

ベルテクネ株式会社

代表取締役社長 前田 努

計画の策定 (Plan)

4. 環境経営目標

- 環境経営目標は、当社の事業活動を踏まえて策定した中長期目標のうち、58期（2023年7月～2024年6月）の目標（7項目17目標）を適用しました。
- なお、目標値は55期（2020年7月～2021年6月）実績値を基準年とし、化学物質とグリーン購入は定性目標、その他の環境負荷項目は数値目標とし、総売り上げ百万円当たりの原単位目標と、総量目標の2ケースを設定しました。
- 58期の環境負荷削減目標は、55期の実績値に対して3%削減を目指しました。

環境経営目標		単位	基準年実績値	単年度目標	中長期目標	
			55 期 (2020.7～ 2021.6)	56 期 (2021.7～ 2022.6)	57 期 (2022.7～ 2023.6)	58 期 (2023.7～ 2024.6)
			基準	基準年比 -1%	基準年比 -2%	基準年比 -3%
1. 二酸化炭素排出量の削減		t -CO ₂	554	548	543	537
		kg-CO ₂ /百万円	272	269	267	264
	① 電気使用量の削減	kWh	688138	681257	37375	667494
		kWh/百万円	337.5	334	331	327
	② ガソリン使用量の削減	ℓ	15960	15800	15641	15481
		ℓ /百万円	7.83	7.75	7.67	7.60
	① 軽油使用量の削減	ℓ	43881	43442	43003	42565
		ℓ /百万円	21.5	21.3	21.1	20.9
2. 一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)		kg	4251	5653	5696	5540
		kg/百万円	2.08	2.18	2.16	2.14
3. 産業廃棄物排出量の削減		kg	5,155	—	5,052	5,000
		kg/百万円	2.53	—	2.48	2.45
4. 水使用量の削減		m ³	873	864	856	847
		m ³ /百万円	0.428	0.424	0.419	0.415
5. 化学物質の適正管理		—	—	・ 流出等が起こらない化学物質の適正な管理を行う。 ・ SDS の管理		
6. グリーン購入の推進		—	—	・ 新たに購入するものは環境ラベルの表示があること ・ 建設資材は、環境にやさしい素材を使用すること		
7. 材料歩留まり (ロス率削減)		%	28.32	—	27.75	27.47

備考)・二酸化炭素排出量は、九州電力(株)の2020年度調整後排出係数 0.479 kg-CO₂/kWh を使用して算出した。

計画の策定（Plan）

5. 環境経営計画

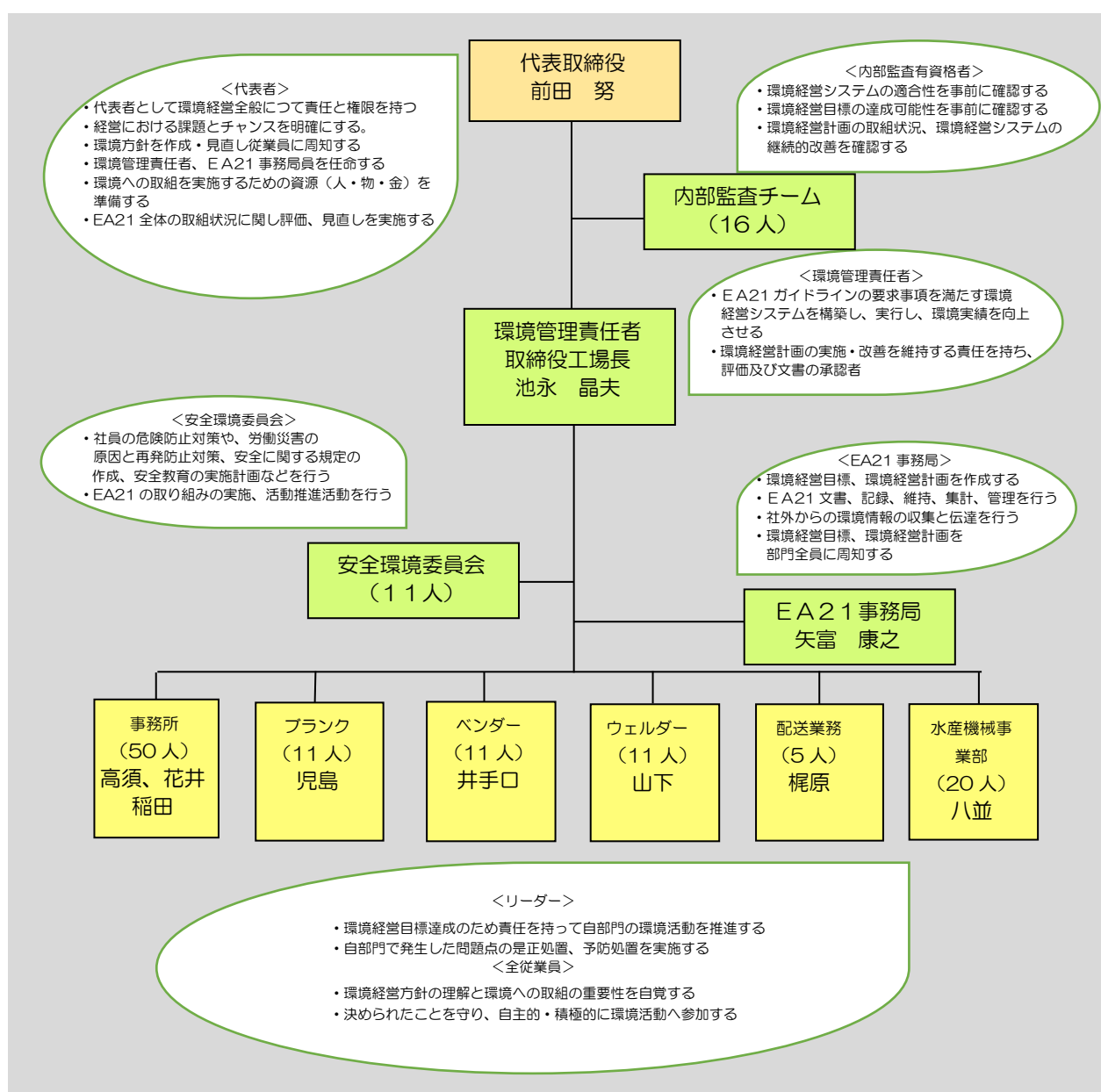
- 環境経営目標を達成するため、以下の具体的な取組（活動項目）を設定して、全社員で取り組みました。
- 取組に当たっては、取組目標の責任者と活動項目の担当者を決め、担当者から報告を受けた責任者が毎月の実施状況を所定の書式に記録して確認し、これを環境管理責任者が四半期毎に評価するチェックシステムを構築して、目標達成に努めました。

環境経営目標	取組目標	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
1.二酸化炭素排出量の削減	① 電気使用量 3%削減	矢富	1.エアコン温度管理、清掃の徹底	下村 八並 花井	冷房時期： 5～9月 暖房時期： 11～3月
			2.こまめな照明の消灯	井手口 八並 下村	通年
			3.照明機器の点検清掃	八並 山口	通年
			4.待機電力の削減	秋丸 井手口 鐘川浩	通年
	② ガソリン、 軽油使用量 3%削減	矢富	1.エコドライブの実施	石橋 高須	通年
			2.GPSによる運転状況の監視	鐘川浩	通年
			3.使用前点検・整備の徹底	石橋 八並	通年
2.一般廃棄物排出量の削減	① 一般廃棄物排出量 （焼却ごみ）の 3%削減	矢富	1.ごみの分別	花井 井手口 中島俊	通年
			2.リサイクルの推進	花井 秋丸	通年
3.産業廃棄物排出量の削減	① 産業廃棄物排出量 の3%削減	矢富	1.ゴミの分別（焼却ゴミ、リサイクル）	秋丸 中島俊	通年
4.水使用量の削減	① 水使用量の 3%削減	矢富	1.節水活動の推進	秋丸 中島俊	通年
5.化学物質の適正管理	① 化学物質の 適正管理	矢富	1.流失等が起こらない様に管理を行う。	秋丸 中島俊	通年
			2.SDSの管理	矢富	通年
6.グリーン購入の推進	① グリーン購入の 推進	矢富	1.新たに購入するものはエコマーク・グリーンマークなどの環境ラベルの表示があることを考慮する。	鐘川浩	通年
			2.フォースター認定の建材等を可能な限り使用すること。	下村 八並	通年
7.材料歩留まり （ロス率削減）	① 材料歩留まり （ロス率3%削減）	矢富	1.ネスティング時に無駄の出ないように詰めて行う。	児島 山口	通年
			2.残材の有効活用。		

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- 58 期に当社が実施した環境への取組は、以下のとおりです。
- なお、実施に当たっては、社内に次のような実施体制を構築して、それぞれの役割・権限を定めて、全社員が一丸と なって取り組みました。

(1) 環境管理実施体制



（２）５８期に実施した環境への取組内容

- ・環境経営計画に基づき以下の取組をSDGs（17のゴール）と紐付けて実施しました。

1．二酸化炭素排出量の削減

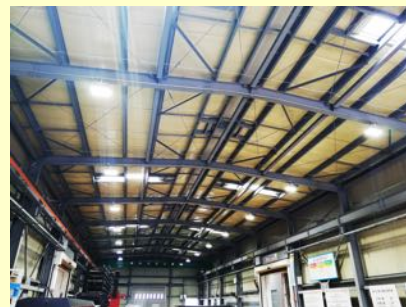
（１）電気使用量の削減



- ・工場内設備では、省エネ効果の高い設備導入を進め、省電力に貢献しています。
- ・常時使用しない場所では、人感センサーやタイマーの使用により無駄な電気の削減に取り組んでいます。



省エネ型機械による加工



工場内LED照明

（２）燃料(ガソリン、軽油)使用量の削減



- ・ガソリン車からの転換を図り、二酸化炭素排出量の少ない車両を選択し、燃料、二酸化炭素削減に取り組んでいます。
- ・また、運行管理システムを使用し、各個人のエコドライブ分析を行い、燃料の削減に取り組んでいます。
- ・新たに、車両の購入や更新時には、燃費の良い車を選択し、環境保護に努めています。

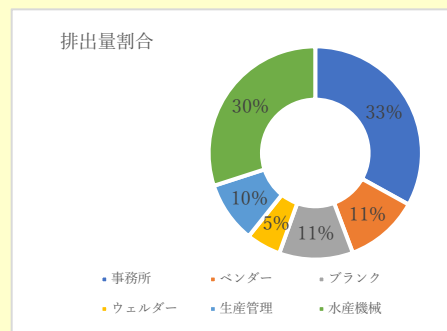
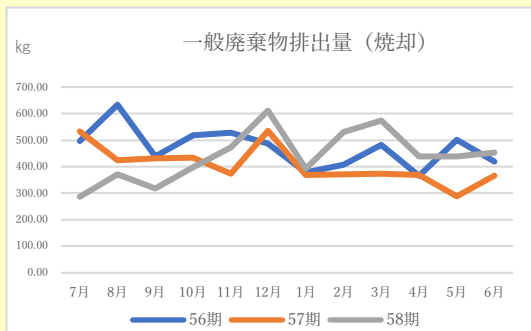


バッテリーフォークリフト・ハイブリッド車

2. 一般廃棄物排出量の削減(焼却)



- ・リサイクルマニュアルを作成し、全員への周知を行い、ごみの削減に取り組んでいます。
- ・ゴミを出す時は、必ず重さを量り集計後、どの部署がどのくらい出したのかを、見える化を行い、ごみ削減取り組んでいます。



ゴミの排出方法の掲示と、分別

3. 水使用量の削減



- ・水を使用する場所では、こまめに止める事が出来る様に、ノズルの取り付けや、自動水栓の設置を行い、必要な分のみ使用するようにしています。
- ・植物への散水は、自動化して散水しています。



自動散水装置付き（壁面緑化）



自動水栓の使用

4.化学物質の適正管理



- 化学物質を使用する場合は、SDS(安全データシート)を取り寄せ、取扱者は安全上の使用条件を踏まえて適正使用に努めました。
- 化学物質を取り扱う際には、流失が起らないように適切な取り扱いを行い、流出等が起らないように適正管理に努めました。

化学物質使用記録 58期												
	2023						2024					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
ラッカーシンナー		16				16				16		16
ローバースプレー	42	42	42	42	42	84	0	42	0	42	42	42

化学物質使用記録



SDS の管理

5.グリーン購入の推進



- 事務用品等の購入に際しては、環境ラベルのある商品を優先的に購入しました。
- 建設資材についても、フォースター認定建材等を可能な限り使用しました。



エコマーク認定文具（事務所）



FSCマーク付きコピー用紙（事務所）



フォースター認定（工場）

6.その他の取組



- 水産機械事業部では、養殖関連機器の設計・製作・据付を行っています。給餌機では、作業時間の短縮や、無駄のない給餌を行えるシステム開発に取り組んでいます。
- 餌作りでは、水中でも崩れない餌作りを行っている為、食べ残しが少なく、海を汚す事が少なくなり、作業効率向上により、船舶の燃料消費量も削減出来、働く人々の作業軽減にもなっています。



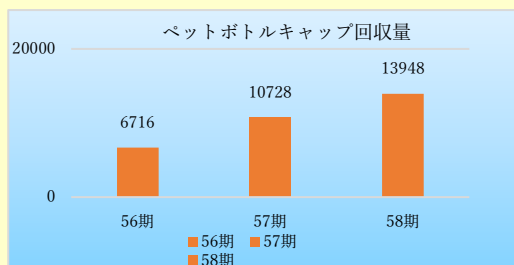
攪拌機



造粒機



- ペットボトルキャップを集め、世界の子供たちにワクチン接種を行えるように協力をしています。58期は 13948 個の回収量となりました。



860個で1人分のワクチン接種が出来ます。

58期は、16人へのワクチン接種が出来ました。



- 発展途上国中心に活動を行っている、ジャパンハートへ、売上の一部を寄付し、医療を受ける事が出来ない人々への医療支援を行いました。地域社会の健康と福祉の向上に貢献しています。



- 当社、所在地に、山林を管理しており、山林を持つ事で、二酸化炭素を吸収し、化石燃料より排出される二酸化炭素の吸収に役立つようにしています。



取組状況の確認及び評価 (Check)

7. 環境経営目標の実績と評価

- 58期の環境経営目標達成状況は以下のとおりであり、設定した7項目17目標のうち、4項目11目標で達成出来ました。このうち、原単位目標（4項目7目標）は、産業廃棄物を除き、3項目6目標で達成出来ました。58期は売り上げが増加したため総量での未達が多くなってしまいました。（55期売り上げに対して、58期は42%増となっています）

環境経営目標	単位	基準年 55期実績値	58期 (2023.7~2024.6)		目標 達成 率	目標 達成 評価
		基準	目標値 (基準年比-3%)	実績値		
1.二酸化炭素排出量の削減	t-CO ₂	554	537	568	95	△
	t-CO ₂ /百万円	272	264	199	137	◎
	①電気使用量の削減	kWh	688,138	854,449	78	×
		kWh/百万円	338	296	110	○
	②ガソリン使用量の削減	ℓ	15,960	15,880	101	○
		ℓ/百万円	7.83	5.6	140	◎
	③軽油使用量の削減	ℓ	43,811	46,588	94	△
		ℓ/百万円	21.4	16.5	130	◎
2.一般廃棄物排出量の削減 (焼却)	kg	4,251	5,540	5,284	80	△
	kg/百万円	2.08	2.14	1.90	109	○
3.産業廃棄物排出量の削減	kg	5,155	5,000	10,690	46	×
	kg/百万円	2.53	2.45	3.69	66	×
4.水使用量の削減	m ³	873	847	775	113	○
	m ³ /百万円	0.428	0.415	0.270	159	◎
5.化学物質の適正管理	—	—	・流出等が起こらない化学物質の適正な管理を行う ・SDSの管理	・流出等が起こらない化学物質の適正な管理を行った	—	○
6.グリーン購入の推進	—	—	・新たに購入する物は、環境ラベルの表示があること ・建設資材は、環境にやさしい素材を使用すること	・新たに購入するものは環境ラベルの表示がある物を選んだ。 ・建設資材は、環境にやさしい素材を使用した。	—	○
7.材料歩留まり（ロス率削減）	%	28.32	27.47	20.74	137	◎

備考）・目標達成評価区分 ◎：目標達成率120%以上、○：100～120%、△：80～100%、×：80%未満

・売上高 55期（2,039百万円）、58期（2,891百万円）

8. 環境経営計画の取組結果とその評価

- ・58期の環境への取組結果は以下のとおりであり、計画した取組は概ね実施出来ています。
- ・なお、目標未達となった産業廃棄物は、外部からの持ち込みが多くあり、削減の取り組みとして合わない項目となっていますので、目標、取組の見直しが必要です。
- ・今後も目標達成に向けた取組を確実に進めていきます。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		※ 目標 達成 状況	活動項目	取組 実施 状況	評価
①	電気使用量 3%削減	○	1.エアコン温度管理、清掃の徹底	◎	定期的にエアコンの清掃は行われており、温度管理は、一括管理されており、適温に調整されている。
			2.こまめな照明の消灯	○	不要箇所の消灯、昼休みの消灯など実施されていた。
			3.照明機器の点検清掃	○	定期的に、清掃を行っている。
			4.待機電力の削減	○	PCの消し忘れや人がいない場所での電気の未消灯はなかった。
②	ガソリン、軽油使用量 3%削減	◎	1.エコドライブの実施	△	エコドライブは実行されていたが、不要な長時間アイドリングが見受けられた。
			2.GPSによる運転状況の監視	○	運転状況が悪い時は、都度報告指導を行っていた。
			3.使用前点検・整備の徹底	○	使用前点検・整備は行われていた。

※目標達成状況は原単位目標で示す、以下同じ。

2. 一般廃棄物排出量の削減 (焼却)

取組目標		目標 達成 状況	活動項目	取組 実施 状況	評価
①	一般廃棄物排出量 (焼却ごみ) の 3%削減	○	1.ごみの分別	○	ごみの分別が行われ、資源ごみはリサイクル業者に搬出していた。
			2.リサイクルの推進	○	同上

備考) 目標達成状況判定区分 ◎: 目標達成率 120%以上、○: 100~120%、△: 80~100%、×: 80%未満
取組実施状況判定区分 ◎: よく実行されている、△: ほぼ実行されている、×: 不十分である、-: 判定不可

取組状況の確認及び評価 (Check)

3. 産業廃棄物の削減

取組目標		目標 達成 状況	活動項目	取組 実施 状況	評価
①	産業廃棄物排出量の 3%削減	×	1.ごみの分別 (焼却ゴミ、リサイクル)	△	分別は行われていたが、社外からの持ち込みが多くなっていた。

4. 水使用量の削減

取組目標		目標 達成 状況	活動項目	取組 実施 状況	評価
②	水使用量の3%削減	◎	1.節水活動の推進	◎	節水活動は行われていた。

5. 化学物質の適正管理

取組目標		目標 達成 状況	活動項目	取組 実施 状況	評価
①	化学物質の適正管理	○	1.流失等が起こらない様に管理を行う。	◎	流出など起こらない様に、管理されていた。
			2.SDS の管理	◎	適正に管理されていた。

6. グリーン購入の推進

取組目標		目標 達成 状況	活動項目	取組 実施 状況	評価
①	グリーン購入の推進	○	1.新たに購入するものは環境ラベルの表示があること。	○	新規に購入する物は、グリーン購入に適するものを考慮し購入していた。
			2. フォースター認定の建材等を可能な限り使用すること。	○	フォースター認定の物を確認し使用する様にしていた。

7. 材料歩留まりの

取組目標		目標 達成 状況	活動項目	取組 実施 状況	評価
①	無駄の無い鋼材の使用	◎	1.ネスティング時に無駄の出ないように詰めて行う	◎	取組はよく実施されていた。
			2. 残材の有効活用	△	残材の有効活用があまりされていなかった。

備考) 目標達成状況判定区分 ◎: 目標達成率 120%以上、○: 100~120%、△: 80~100%、×: 80%未満
 取組実施状況判定区分 ◎: よく実行されている、△: ほぼ実行されている、×: 不十分である、-: 判定不可

9. 次年度の環境経営目標、環境経営計画

(1) 次年度の環境経営目標

- ・次年度の環境経営目標は、58 期実績値を基準年とし、単年度、中長期目標を再設定しました。59 期の削減目標については基準年実績値から 1%削減を目指します。
- ・産業廃棄物排出量の削減は、社外からの持ち込みが多い為、総量目標に変えて自社でコントロール出来る「リサイクル率」で設定しました。

■次期中長期の環境経営目標

環境経営目標	単位	基準年実績値	単年度目標	中長期目標	
		58 期 (2023.7~ 2024.6)	59 期 (2024.7~ 2025.6)	60 期 (2025.7~ 2026.6)	61 期 (2026.7~ 2027.6)
		基準	基準年比 -1%	基準年比 -2%	基準年比 -3%
1.二酸化炭素排出量の削減	t-CO ₂	568	562	557	551
	kg-CO ₂ /百万円	201	199	197	195
① 電気使用量の削減	kWh	854,449	845,905	837,360	828,816
	kWh/百万円	303	300	297	294
②ガソリン使用量の削減	ℓ	15,880	15,721	15,562	15,404
	ℓ/百万円	5.56	5.50	5.45	5.39
③ 軽油使用量の削減	ℓ	46,588	46,122	45,656	45,190
	ℓ/百万円	16.34	16.18	16.01	15.85
2.一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)	kg	5,284	5,231	5,178	5,125
	kg/百万円	1.83	1.81	1.79	1.78
3. 産業廃棄物排出量の削減 (リサイクル率の向上)	% (リサイクル率)	75	80	80	80
4. 水使用量の削減	m ³	775	767	760	752
	m ³ /百万円	0.268	0.265	0.263	0.260
5. 化学物質の適正管理	—	—	・流出等が起こらない化学物質の適正な管理を行う。 ・SDS の管理。		
6. グリーン購入の推進	—	—	・新たに購入するものは環境ラベルの表示があること ・建設資材は、環境にやさしい素材を使用すること		
7. 材料歩留まり (ロス率削減)	% (ロス率)	20.7	20.5	20.3	20.1

備考) ・二酸化炭素排出量は、九州電力(株)の 2023 年度調整後排出係数 0.406 kg-CO₂/kWh を使用して算出した。

・58 期の売上高は 2,891 百万円とした。

・産業廃棄物の目標値は、リサイクル率 80%以上 (特別管理廃棄物除く) の数値目標とした。

取組状況の確認及び評価 (Check)

(2) 次年度の環境経営計画

- ・59 期の環境経営計画については、58 期の取組が概ね良好であったためこれを継続・強化することとしました。なお、産業廃棄物についてはリサイクル率を向上するため、現場、工場内での分別を徹底することとしました。

環境経営目標	取組目標	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
1.二酸化炭素排出量の削減	① 電気使用量 1%削減	矢富	1.エアコン温度管理、清掃の徹底	花井	冷房時期： 5～9月 暖房時期： 11～3月
			2.こまめな照明の消灯	稲田	通年
			3.照明機器の点検清掃	山口	通年
			4.待機電力の削減	井手口	通年
	② ガソリン、 軽油使用量 1%削減	矢富	1.エコドライブの実施	梶原	通年
			2.GPSによる運転状況の監視	鐘川	通年
			3.使用前点検・整備の徹底	石橋	通年
2.一般廃棄物排出量の削減	① 一般廃棄物排出量 (焼却ごみ)の 1%削減	矢富	1.ごみの分別	中島	通年
			2.リサイクルの推進	山下	通年
3. 産業廃棄物排出量の削減 (リサイクル率向上)	① リサイクル率 80%以上	矢富	1.分別排出の徹底	秋丸 中島	通年
4.水使用量の削減	① 水使用量の 1%削減	矢富	1.節水活動の推進	山下	通年
5.化学物質の適正管理	① 化学物質の 適正管理	矢富	1.流失等が起こらない様に管理を行う。	山口	通年
			2.SDS の管理	八並	通年
6.グリーン購入の推進	① グリーン購入の 推進	矢富	1.新たに購入するものはエコマーク・グリーンマークなどの環境ラベルの表示があることを考慮する。	鐘川浩	通年
			2. フォースター認定の建材等を可能な限り使用すること。	下村 八並	通年
7.材料歩留まり (ロス率削減)	② ロス率 20.5%以下	矢富	1. ネスティング時に無駄の出ないように詰めて行う。	児島	通年
			2.残材の有効活用。	山口	

10. 環境関連法規の遵守状況の確認及び違反、訴訟等の有無

- ・当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

環境関連法規	要求事項	遵守状況
騒音規制法	特定施設の設置の届出	○
	規制基準の遵守	○
振動規制法	特定施設の設置の届出	○
	規制基準の遵守	○
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正処理の遵守	○
	産業廃棄物管理票の管理	○
	産業廃棄物処理の義務	○
	投棄禁止	○
	焼却禁止	○
高圧ガス保安法	貯蔵設備の届出	○
家電リサイクル法	正しい方法での引き渡し	—
須恵町条例	騒音・振動基準の遵守	○
下水道法	排水基準の遵守	○
建設リサイクル法	建設資材廃棄物の発生を抑制	○
フロン排出抑制法	廃棄におけるフロン回収の遵守	○
	対象機器の簡易点検・定期点検	○
自動車リサイクル法	廃車時の適正な処理	—
小型家電リサイクル法	適正な処理の遵守	○

備考) 遵守判定 ○: 遵守 ×: 不遵守 -: 該当なし

11. 内部監査の結果

- ・58期のシステム運用途中段階で、エコアクション21要求事項や自社が決めたルールを満たしているかを内部監査でチェックし、問題がないことを確認しました。

12. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 取組状況の全体評価

- 目標の達成状況は、売り上げ増加に（55 期比 1.4 倍）伴い、負荷量も増加傾向になって目標未達が多くなっていますが、売上高百万円当たりの原単位でみると、産業廃棄物を除いて全て目標を達成し、生産効率が向上していることを確認しました。
- 本業目標である材料歩留まりの向上（ロス率削減）については、目標達成率 137% で非常に良好な結果となっています。
- 計画した環境への取組は適切に実施され、環境経営システムも有効に機能しておりますが、更に誰でも確実に取組活動が出来るよう、各部署リーダーを中心に新入社員の教育を行う必要があります。

(2) 次期（59 期）計画に向けて

- 58 期の運用成績は概ね良好であったため、59 期は当初計画の目標、取組をそのまま適用しますが、目標未達となった産業廃棄物については総量削減目標から自社でコントロール出来るリサイクル率の向上目標に変更することとしました。
- 59 期は全目標、全取組の達成を目指します。



ベルテクネ株式会社
代表取締役社長 前田 努